

議案 1 2020 年度事業報告

(2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日)

日本気象学会は2013年4月1日に公益社団法人に移行し、定款第3条のとおり「気象学、大気科学等の研究を盛んにし、その進歩をはかり、国内及び国外の関係学協会等と協力して、学術及び科学技術、並びに文化の振興及び発展に寄与すること」を目的として、2020年度も定款第4条で定める以下の事業を新型コロナウイルス感染症の状況に留意しつつ推進した。

- ・ 気象学、大気科学等に関する研究会及び講演会等の開催
- ・ 機関誌その他気象学、大気科学等に関する図書等の刊行
- ・ 研究の奨励、援助及び研究業績の表彰
- ・ その他この目的を達成するために必要な事業

I 気象学・大気科学等に関する研究会及び講演会等の開催事業の実施（公益目的事業 1）

気象学・大気科学に関する研究成果や最新の知見を、大会における講演発表、公開気象講演会、各支部における研究報告会並びに普及活動等を通じて社会に公表し、学術及び科学技術、並びに文化の振興及び発展を図った。

1. 研究会等の開催

(1) 全国大会

春季並びに秋季に開催している全国大会は、会員等が研究及び調査の成果を発表する研究集会であり、2020年度は、以下のとおり開催した。各大会は講演企画委員会と担当機関内に設置された実行委員会が協力して、企画運営を行っている。

春季・秋季大会の発表論文の予稿（要約を1ページに掲載）を全て掲載した「大会講演予稿集」（電子媒体）を、春季大会では学会HPで会員に公開し、秋季大会では大会参加者に事前に配布した。

① 2020 年度春季大会

新型コロナウイルス感染症の影響により、カルッツかわさき（神奈川県川崎市）での現地開催は中止し、大会講演予稿集の発行（5月25日会員に公開）をもって大会開催とした。

担 当：海洋研究開発機構、防衛大学校、横浜国立大学

講演数：専門分科会 36 件、口頭発表 177 件、ポスター発表 87 件、合計 300 件

② 2020 年度秋季大会

期 日：2020 年 10 月 25 日～31 日

場 所：オンライン開催

担 当：大阪管区气象台、京都大学、京都産業大学、神戸大学、同志社大学

参加者：712 名

講演数：専門分科会 47 件、口頭発表 93 件、ポスター発表 169 件、合計 309 件

(2) 調査研究会

我が国に発生した気象災害に関する調査研究会として、「令和2年7月豪雨」をテーマに気象災害委員会がメソ気象研究連絡会と共催で、オンラインで開催した（2021年3月8日）。

(3) 研究連絡会

研究連絡会は会員の自主的な発議に基づき、理事会の承認を得て設置されており、若干の世話人を中心に運営されている。現在合計 15 の研究連絡会が設置されており、以下の 7 研究連絡会が合計 8 回の研究会を、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえオンラインで開催した。

研究連絡会	期日	場所	テーマ
気象学史	2020 年 8 月 22 日	オンライン	「天気予報の自由化」25 年—気象行政史の視点から
台風	2020 年 9 月 7～8 日	オンライン	Virtual 台風セミナー
気象学史	2020 年 10 月 29 日	オンライン	明治創設期の測候所と気象学：期待と役割—旧測候所保存資料から探る
非静力学数値モデル	2020 年 11 月 11～12 日	オンライン	第 22 回非静力学モデルに関するワークショップ
観測システム・予測可能性、気候形成・変動機構	2020 年 12 月 3 日	オンライン	災害をもたらす極端気象の発現にかかわる総観場・循環場の特徴と大気海洋過程
長期予報	2021 年 1 月 18 日	オンライン	日本の天候に影響を与えている現象の近年の傾向

航空気象	2021年2月5日	オンライン	第15回航空気象研究会
天気予報	2021年2月20日	オンライン	第18回天気予報研究会
熱帯気象	2021年3月4～5日	オンライン	第11回熱帯気象研究会
メソ気象、気象災害	2021年3月8日	オンライン	令和2年7月豪雨

(4) 気象研究コンソーシアム

気象研究コンソーシアムは、日本気象学会と気象庁とで締結された包括的な共同研究契約「気象庁データを利用した気象に関する研究」に基づく枠組みである。2020年度におけるこの枠組みを利用した研究課題数は50件である。

(5) 他学会との共催等

他学会と共催で、気象学・大気科学に関する研究会やシンポジウム等を実施し、研究成果の公開に努めると共に、関連分野の研究者との情報交換・情報共有に努めた。2020年度は以下の会合等を開催した。

① 第37回エアロゾル科学・技術研究討論会

主催：日本エアロゾル学会（2020年8月27～28日：オンライン開催）

② 第6回理論応用力学シンポジウム

主催：日本学術会議 総合工学委員会・機械工学委員会合同力学基盤工学分科会
（2020年9月1～3日：オンライン開催）

③ 原子力総合シンポジウム2020

主催：日本学術会議 総合工学委員会原子力安全に関する分科会（2020年9月30日：オンライン開催）

④ 第26回風工学シンポジウム 主催：日本風工学会（2020年11月30日～12月2日：オンライン開催）

気象学会から委員を選出し運営に参画している。

⑤ 第34回数値流体力学シンポジウム

主催：日本流体力学学会（2020年12月21～23日：オンライン開催）

(6) 支部研究会活動

各支部において年1～4回、地域特有の現象等に関する気象学・大気科学の研究成果の発表会を行い、成果の公開に努めると共に、研究者間での情報交換・情報共有に努めた。2020年度は以下のとおり実施した。

① 北海道支部 ア 第1回研究発表会 コロナ禍の影響で中止

イ 第2回研究発表会 2020年12月22～23日（オンライン開催）（参加者約100名）

② 東北支部 支部研究会 2020年12月7日（仙台市）（参加者約30名、オンライン配信も実施）

③ 中部支部 支部研究会 2020年12月15～16日（オンライン開催）（参加者54名）

④ 関西支部 ア 第1回支部例会 2020年12月18日（オンライン開催）（参加者約75名）

イ 第2回支部例会 2020年12月24日（オンライン開催）（参加者約60名）

ウ 第3回支部例会 2021年1月8～9日（オンライン開催）（参加者約30名）

⑤ 九州支部 支部発表会 2021年3月7～14日（オンライン開催）（参加者26名）

⑥ 沖縄支部 支部研究発表会 2021年2月24日（オンライン開催）（参加者約50名）

(7) その他

① 日本気象学会夏期特別セミナー（若手会 気象夏の学校）開催への援助

本セミナーは、若手研究者の研究発表の実施並びに最先端の研究を行う気象研究者による講演を行うことにより、若手研究者相互の交流や研究意識を高めることを目的としており、日本気象学会が援助を行っている。2020年度は、以下のとおり行われた。

・日付：2020年9月5～6日

・場所：オンライン開催

・内容等：招待講演（講師2名の方々による講演）、一般講演

・参加者：97名

2. 一般向け普及・啓発活動

(1) 公開気象講演会

公開気象講演会は、教育と普及委員会が中心となって、一般市民の方々に気象に関する最近の研究成果を分かりやすく解説することを目的として、春季大会開催時に開催している。2020年度はコロナ禍の影響で中止した。

(2) 第53回夏季大学

夏季大学は、最新の気象学の知識の普及を目的に、小中高校の教職員や、気象の愛好家を対象とした、やや専門性の高い講座で、教育と普及委員会が中心となって毎年度開催している。2020年度は以下のとおり開催した。

なお、今年度は小倉義光・正子基金を活用し、参加費を取らなかった。

・日付：2020年8月22日（土）～23日（日）

- ・場所：オンライン開催（リアルタイム講演＋録画講演）
- ・テーマ：雲の科学
- ・参加者：約 400 名

(3) 気象サイエンスカフェ

気象サイエンスカフェは、日本気象学会と日本気象予報士会が共催する「気象の専門家や有識者」と「その話を聴いたり話したりしてみたい方」との科学コミュニケーションの場として、2006 年春に東京でスタートした。現在は各支部を中心に全国各地で開催している。2020 年度の開催状況は以下のとおりである。また、同様の活動は(7)で示すように、各支部においても実施している。

- ①日付：2020 年 7 月 26 日，場所：オンライン開催、テーマ：気象と気象防災
- ②日付：2020 年 11 月 7 日，場所：オンライン開催、テーマ：小さな塵の多彩なはたらき～エアロゾルの様々な役割
- ③日付：2021 年 1 月 23 日，場所：オンライン開催、テーマ：雪や氷の造形を楽しもう

(4) ジュニアセッションの開催

ジュニアセッションは、気象学に興味を持つ主に高校生・高専生（中学生も可）を対象に、生徒達が気象学会の大会会場において、専門家の前で発表体験をすることにより、生徒達の気象学に対する興味や探究心が高まり、学会としての社会貢献にとどまらず、将来の気象学の発展とより豊かな社会の招来に繋がることを期待して開催している。2020 年度は、以下のとおり、第 6 回を実施した。なお、本事業は小倉義光・正子基金により実施しています。

- ・日付：2020 年 5 月 23 日（土）～31 日（日）
- ・場所：オンライン開催
- ・参加校数、発表件数：22 校、26 件

(5) 先生のための気象教育セミナー

気象に関する教育支援を目的に「先生のための気象教育セミナー」を開催した。2020 年度は、防災を話題とした。なお、本事業は小倉義光・正子基金から資金補助を受けて実施した。

- ・日付：2021 年 1 月 10 日
- ・場所：オンライン開催
- ・参加者：中学校・高等学校教員を中心に 32 名

(6) 「女子中高生夏の学校 2020～科学・技術・人との出会い～」

2020 年の女子中高生夏の学校は新型コロナウイルス感染症の影響で、1 年延期になった。代わりに、学生企画で座談会を中心にオンラインで開催され、教育と普及委員が 2 日間オンライン座談会の相談員として参加した。

(7) 支部普及活動

各支部において、それぞれの地域の実情に応じて、「気象講演会」、「サイエンスカフェ」、「ジュニアセッション」、「こども気象学教室」、「離島お天気教室」等、一般市民並びに子供を対象に普及活動に努めている。2020 年度は以下の活動を実施した。

支部	活動	日付	場所	内容	参加者
東北	気象講演会	2020 年 12 月 12 日	オンライン	東北地方の気象災害 ～現状とその背景～	185 名
中部	サイエンスカフェ	2020 年 11 月 29 日	オンライン	近年の極端な気象現象の変化と集中豪雨をもたらす線状降水帯	67 名
	サイエンスカフェ	2021 年 2 月 7 日	オンライン	雷を知ることで被害は防げる	58 名
関西	講演会	2020 年 12 月 18 日	オンライン	気候変動と豪雨災害	約 75 名
	講演会	2020 年 12 月 24 日	オンライン	近年の、豪雨と地球温暖化～最新イベント・アトリビューション研究の紹介～	約 75 名
	講演会	2021 年 1 月 9 日	オンライン	地球温暖化予測について～気象研究所の取組と「日本の気候変動 2020」を中心に～	約 60 名
九州	気象教室	2020 年 11 月 8 日	オンライン	台風観測と洪水予報の未来	当日約 200 名 YouTube 637 回

	サイエンスカフェ	2021年2月14日	オンライン	気候変動のリスクと社会の大転換	当日約90名 YouTube 270回
	ジュニアセッション	2021年3月7～14日 支部発表会のセッションとして実施	オンライン	参加校数：3、発表件数：4	生徒20名 他26名
沖縄	防災・気候講演会	2021年1月12～3月31日	インターネット配信	講演「コトバと気象」「近年の気象災害と地球温暖化」沖縄気象台、沖縄県等と共催	視聴 約1100回
	サイエンスカフェ	2021年2月6日	オンライン	2020年の沖縄の天気をふりかえる	48名

(8) その他

①気象予報士 CPD 制度の支援

2016年度に引き続き、気象予報士の気象技能の継続的な研鑽を目的とした CPD (Continuing Professional Development) 制度を支援している。適切な CPD ポイントを設定するための CPD 認定委員会に、気象学会から委員3名を派遣している。

II 機関誌その他気象学・大気科学等に関する図書等の刊行事業の実施（公益目的事業2）

気象学・大気科学に関する研究成果や最新の知見を、刊行物によって社会に公表することを通じて、学術及び科学技術の振興と発展を図っている。2020年度は、以下の1～4の4種類の図書の刊行を行った。

1. 機関誌「天気」の刊行

「天気」は、和文の査読つき論文、気象学・大気科学に関する解説、学術集会の報告、その他日本気象学会や関連学会等の情報などを掲載した月刊の機関誌である。編集作業等は、全国の会員40名余りで構成された天気編集委員会が担当している。

2020年度は「第67巻4号～第68巻3号 計708ページ」を刊行した。また、冊子体の発行からおよそ1ヵ月後に、電子ジャーナル版を公開している。

2. 英文論文誌「気象集誌」の刊行

「気象集誌 (Journal of the Meteorological Society of Japan)」は、英文の査読つきオリジナル論文及びレビュー論文のみを掲載する隔月刊の論文誌である。編集作業等は、海外の研究者を含む40名余りで構成された気象集誌編集委員会が担当している。

2020年度は「第98巻2号～第99巻1号 計1370ページ、論文68編」を刊行した。また、2016年の投稿論文から冊子体刊行に先じて電子ジャーナル版を公開している。

一方、日本学術振興会から（科学研究費補助金：研究成果公開促進費）を受け、2019年度から5ヵ年計画で「国際情報発信強化の取組」を進めている。取組の目的は JMSJ/SOLA のさらなる国際情報発信を強化し、両誌の質の向上を図り、気象学分野を国際的にリードする専門紙としての地位を確立することにある。このため、2020年度は、気象集誌と SOLA との連携を強化し、広報体制の拡充による visibility（可視性）の向上、査読、出版プロセスの迅速化等を図った。

3. 英文レター誌「SOLA」の刊行

「SOLA」は、速報性を重視した Web 上（電子版）のみで公開する英文の査読つきレター誌である。速報性を重視しているため、1編の英単語数の上限を3100語（約4～6ページ程度）としている。編集作業等は、海外の研究者を含む40名余りで構成された SOLA 編集委員会が担当している。

2020年度は「第16巻、第17巻、特別号の第16A巻および第17A巻、計309ページ 論文49編」を刊行した。

一方、日本学術振興会から（科学研究費補助金：研究成果公開促進費）を受け、2019年度から5ヵ年計画で「国際情報発信強化の取組」を進めている。取組の目的は JMSJ/SOLA のさらなる国際情報発信を強化し、両誌の質の向上を図り、気象学分野を国際的にリードする専門紙としての地位を確立することにある。このため、2020年度は、気象集誌と SOLA との連携を強化し、広報体制の拡充による visibility（可視性）の向上、査読、出版プロセスの迅速化等を図った。

4. 「気象研究ノート」の刊行

「気象研究ノート」は気象学・大気科学の最新の知見や技術について、テーマごとに詳細に解説を掲載した不定

期刊行の学術誌である。編集作業等は、委員 12 名で構成された気象研究ノート編集委員会が担当している。

2020 年度は、242 号「極値統計」、243 号「竜巻を識る」を刊行した。

Ⅲ 研究の奨励、援助および研究業績の表彰事業の実施（公益目的事業 3）

学術及び科学技術の振興及び発展を図ることを目的に、気象学・大気科学に関する個人又はグループの優秀な研究・教育・普及活動等の業績を顕彰している。

また、若手研究者を対象に、国外での学術研究集会への参加に際しての旅費等の援助を行うとともに、我が国で開催する学術研究集会への国外からの参加を促すために、旅費等の支援を実施している。これらの活動を行うことにより、国際学術交流を推進している。

1. 研究業績の表彰

(1) 日本気象学会の表彰

2014 年度からは、新たに岸保賞を設けると共に、従来の山本・正野論文賞の主旨を継承発展させた正野賞と山本賞の 2 つの賞を新たに設けた。また、2018 年度からは、優れた発表をした学生を顕彰する松野賞を設けた。これにより、日本気象学会賞、藤原賞、岸保・立平賞、堀内賞、正野賞、山本賞、小倉奨励賞、松野賞の 8 つの賞となり、気象学・大気科学の多様な分野と学生を含む多様な世代の優れた研究者を幅広く顕彰することが可能となり、奨励事業の拡充を図ることができた。

それぞれの賞に対する候補者推薦委員会より推薦された候補者について、理事全員の投票により受賞者を決定している。

この他、気象集誌論文賞並びに SOLA 論文賞は、それぞれの編集委員会が決定している。2020 年度は以下の通り顕彰を実施した。

賞	受賞者	業績又は対象論文
日本気象学会賞	吉森正和（東京大学）	古気候シミュレーションを活用した気候感度および気候フィードバックのメカニズムに関する研究
藤原賞	中村 尚（東京大学）	中・高緯度の大規模な大気循環変動メカニズムに関する研究および異常気象分析を通じた気象業務との連携の推進
岸保・立平賞	楠 研一（気象研究所） 鈴木博人（東日本旅客鉄道（株））	ドップラーレーダーを用いた突風災害の軽減に向けた研究開発と鉄道の安全運行のための社会実装
堀内賞	牛尾知雄（大阪大学）	降水観測の時空間解像度向上への技術的貢献
	須藤健悟（名古屋大学）	化学気候モデルの開発と大気環境・気候変動研究の推進
正野賞	梅澤 拓（国立環境研究所）	メタン等の長寿命大気微量気体の動態解明に関する観測的研究
	川瀬宏明（気象研究所）	領域気候モデルを用いた日本の地域気候変化予測に関する研究
山本賞	齊藤雅典（テキサス A&M 大学）	能動型・受動型衛星観測を複合利用した雲のリモートセンシング手法の開発
	南出将志（東京大学）	衛星全天候観測データを用いた台風のデータ同化に関する研究
小倉奨励賞	吉野勝美（元全日本空輸（株））	航空機の安全運航に関わる大気現象に関する研究および航空気象に関する知識の普及・啓発
松野賞	西原大貴（岡山理科大学）	ドローンで観測された三次盆地で発生する放射霧の気象要素の鉛直プロファイル(第 2 報)
	南原優一（東京大学）	PANSY レーダーが捉えた極域対流圏・下部成層圏の Kelvin-Helmholtz 不安定構造
	奥井晴香（東京大学）	高解像度ハイトップ大気大循環モデルを用いた成層圏突然昇温時の全中層大気の力学変動の研究
	柳瀬友朗（京都大学）	湿潤対流の自己集合化の発生に関する新たな臨界長さ
気象集誌論文賞	竹村和人・向川 均（京都大学）	Kazuto Takemura, Hitoshi Mukougawa: Dynamical Relationship between Quasi-stationary Rossby Wave Propagation along the Asian Jet and Pacific-Japan Pattern in Boreal Summer., <i>J. Meteor. Soc. Japan</i> , Vol. 98, No1, 169-187 (2020)
	Bjorn Stevens, Claudia Acquistapace, Akio Hansen,	Bjorn Stevens, Claudia Acquistapace, Akio Hansen, Rieke Heinze, Carolin Klinger, Daniel Klocke, Harald Rybka, Wiebke

	Rieke Heinze, Carolin Klinger, Daniel Klocke, Harald Rybka, Wiebke Schubotz, Julia Windmiller, Panagiotis Adamidis, Ioanna Arka, Vasileios Barlakas, Joachim Biercamp, Matthias Brueck, Sebastian Brune, Stefan A. Buehler, Ulrike Burkhardt, Guido Cioni, Montserrat Costa-Surós, Susanne Crewell, Traute Crüger, Hartwig Deneke, Petra Friederichs, Cintia Carbajal Henken, Cathy Hohenegger, Marek Jacob, Fabian Jakob, Norbert Kalthoff, Martin Köhler, Thirza W. van Laar, Puxi Li, Ulrich Löhnert, Andreas Macke, Nils Madenach, Bernhard Mayer, Christine Nam, Ann Kristin Naumann, Karsten Peters, Stefan Poll, Johannes Quaas, Niklas Röber, Nicolas Rochetin, Leonhard Scheck, Vera Schemann, Sabrina Schnitt, Axel Seifert, Fabian Senf, Metodija Shapkalijevski, Clemens Simmer, Shweta Singh, Odran Sourdeval, Dela Spickermann, Johan Strandgren, Octave Tessiot, Nikki Vercauteren, Jessica Vial, Aiko Voigt, Günter Zängl	Schubotz, Julia Windmiller, Panagiotis Adamidis, Ioanna Arka, Vasileios Barlakas, Joachim Biercamp, Matthias Brueck, Sebastian Brune, Stefan A. Buehler, Ulrike Burkhardt, Guido Cioni, Montserrat Costa-Surós, Susanne Crewell, Traute Crüger, Hartwig Deneke, Petra Friederichs, Cintia Carbajal Henken, Cathy Hohenegger, Marek Jacob, Fabian Jakob, Norbert Kalthoff, Martin Köhler, Thirza W. van Laar, Puxi Li, Ulrich Löhnert, Andreas Macke, Nils Madenach, Bernhard Mayer, Christine Nam, Ann Kristin Naumann, Karsten Peters, Stefan Poll, Johannes Quaas, Niklas Röber, Nicolas Rochetin, Leonhard Scheck, Vera Schemann, Sabrina Schnitt, Axel Seifert, Fabian Senf, Metodija Shapkalijevski, Clemens Simmer, Shweta Singh, Odran Sourdeval, Dela Spickermann, Johan Strandgren, Octave Tessiot, Nikki Vercauteren, Jessica Vial, Aiko Voigt, Günter Zängl: The Added Value of Large-eddy and Storm-resolving Models for Simulating Clouds and Precipitation., <i>J. Meteor. Soc. Japan</i> , Vol. 98, No2, 395-435 (2020)
	川端康弘・山口宗彦 (気象研究所)	Yasuhiro Kawabata, Munehiko Yamaguchi: Probability Ellipse for Tropical Cyclone Track Forecasts with Multiple Ensembles., <i>J. Meteor. Soc. Japan</i> , Vol. 98, No4, 821-833 (2020), doi:10.2151/jmsj.2020-042.
SOLA 論文賞	藤部文昭 (東京都立大学)	Fumiaki Fujibe: Temperature anomaly in the Tokyo metropolitan area during the COVID-19 (coronavirus) self-restraint period. <i>SOLA</i> , 2020, Vol. 16, pp. 175-179, doi:10.2151/sola.2020-030.

(2) 支部における顕彰

北海道支部では、会員の研究の奨励推進の一環として、支部における活動で業績のあったものや支部研究発表会で優れた講演をおこなったものを顕彰している。2020年度は以下のとおり、4名を顕彰した。

受賞者：支部賞：中山 寛 (釧路地方気象台)

支部発表賞：平田 憲 (北海道大学)、川添 祥 (北海道大学)、松下拓樹 (寒地土木研究所)

中部支部では、若手会員又は研究を本務としない会員で、「気象学の向上に資する研究を行っている」、「気象学の教育・普及活動が特に顕著」、「気象学を応用することにより社会に貢献している」に該当するものを顕彰している。2020年度は以下のとおり、1名を顕彰した。

受賞者：川口航平 (名古屋大学)

九州支部では独自活動の一つとして、会員で、「気象学の向上に資する研究を行っている」、「気象学の教育・啓発活動を積極的に行っている」、「気象学を応用した活動で社会に貢献している」のいずれかの項目に該当する者を最大で3名選び顕彰している。2020年度の顕彰は、対象者なしとなった。

東北支部の独自活動の一つとして、支部研究発表会において優れた講演を行った支部会員から、原則として2名程度選び顕彰している。2020年度は以下のとおり、2名を顕彰した。

受賞者：池田 翔 (山形地方気象台)、小原涼太 (東北大学)

(3) 部外表彰等受賞候補者の推薦

関係団体等が主宰するいくつかの賞に対して、日本気象学会として候補者を推薦している。部外表彰等候補者推薦委員会が担当している。2020年度の推薦はなかった。

2. 国際学術交流事業への支援・援助

(1) 渡航費の支援

国際学術研究集会等に出席して論文の発表もしくは議事の進行に携わる予定の者に、申請によって渡航費の補助を行っている。資格は学会員に限定しないが、原則として修士論文提出程度の研究実績を要する者で、他から渡航費の援助を得られない者に限定している。

国際学術交流委員会が担当しているが、2020年度は世界的なコロナ禍の影響で補助はなかった。

(2) 小倉特別講義

国内で開かれる国際学術研究集会の支援として、小倉義光・正子基金より招聘費等を補助し、国際学術交流委員会のもと組織した実行委員会が「小倉特別講義」を春季大会に併せて実施している。2020年度は、ハワイ大学のBin Wang教授を招聘する予定だったが、世界的なコロナ禍の影響で中止した。

IV その他この目的を達成するために必要な事業の実施

1. 会員の異動状況

2020年度の会員の異動状況は下表のとおりである。近年の会員数の減少傾向は続いている。本年度は、一般会員の減少数がやや多かった。

会員種別		会員数		増減数
		本年度末 (2021年3月31日)	前年度末 (2020年3月31日)	
個人会員	一般	2,393	2,464	△71
	学生	365	369	△4
	高年	258	254	4
	終身	62	40	22
	合計	3,078	3,127	△49
団体会員	団体A	81	80	1
	団体B	52	56	△4
	団体C	25	25	0
	合計	158	161	△3
賛助会員		24	25	△1
名誉会員		13	15	△2
計		3,273	3,328	△55

2. 役員の選任及び解任

2020年度総会で第41期理事20名及び監事2名を次の通り選任した。任期は、理事が2020年度総会の日から2022年度総会の日までの2年間である。監事の任期は4年間、2024年度総会までである。

なお、理事及びそれぞれの主担当は以下のとおりである。

氏名	所属	主担当
佐藤 薫	東京大学大学院理学系研究科教授	理事長（代表理事）
橋田 俊彦	元気象庁長官	副理事長，企画調整，気象災害
青柳 曉典	国土交通省総合政策局環境政策課交通環境・エネルギー対策企画官	天気編集
池上 雅明	気象庁情報基盤部数値予報課調査官	庶務担当
植田 宏昭	筑波大学生命環境系教授	山本賞候補者推薦
榎本 剛	京都大学防災研究所教授	電子情報，人材育成・男女共同参画
小池 真	東京大学大学院理学系研究科准教授	岸保・立平賞候補者推薦
齋藤 篤思	気象庁大気海洋部環境・海洋気象課大気海洋環	会計担当

	境解析センター調査官	
佐藤 正樹	東京大学大気海洋研究所教授	気象集誌編集
塩谷 雅人	京大大学生存圏研究所教授・所長	学術
竹見 哲也	京都大学防災研究所准教授	SOLA 編集, 小倉奨励賞候補者推薦
坪木 和久	名古屋大学宇宙地球環境研究所教授	部外表彰等候補者推薦, 気象研究コンソーシアム
中村 尚	東京大学先端科学技術研究センター教授	藤原賞候補者推薦, 気象研究ノート編集
橋本 明弘	気象研究所気象予報研究部主任研究官	講演企画
早坂 忠裕	東北大学大学院理学研究科教授	堀内賞候補者推薦
平松 信昭	一般財団法人日本気象協会専任主任技師	教育と普及
廣岡 俊彦	九州大学大学院理学研究院教授	名誉会員推薦, 地球環境問題
堀之内 武	北海道大学地球環境科学研究院准教授	正野賞候補者推薦
三好 建正	理化学研究所計算科学研究センターチームリーダー	松野賞候補者推薦
渡部 雅浩	東京大学大気海洋研究所教授	学会賞候補者推薦, 国際学術交流

また、監事は、以下のとおりである。

氏名	所属
鈴木 靖	一般財団法人日本気象協会執行役員 CTO
吉田 聡	京都大学防災研究所准教授

3. 声明・提言・要請・要望の発出

気象学会の活動に密接不可分な活動等に関連する事案及び依頼機関等のこれまでの活動等並びに今後の活動等において気象学・大気科学との密接な関連性が認められる事案に対して、気象学会の目的を遂行するために声明・提言・要請・要望を発出することとしている。

2020年度は、大学等の9つの共同利用・共同研究拠点の継続認定に関する要請又は要望を、文部科学省又は当該研究施設に発出した。

4. 会議等の開催

(1) 社員総会

全ての個人会員で構成される社員総会は学会の最高の意思決定機関であり、年1回春季大会の期間に開催している。2020年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により春季大会の現地開催を中止したことにより、総会については会場に集まらないこと、書面あるいは電磁的方法による参加票（議決権の行使と議決権の代理行使）の提出により各議案を議決することとして、5月20日に日本気象学会事務室で開催した。

総会には以下の議案が提案され、議案1、2、3、4については、総会参加票による賛成多数で承認した。

- ① 審議事項 議案 1. 2019年度事業報告
議案 2. 2019年度決算報告
議案 3. 2019年度監査報告
議案 4. 第41期役員の選任について
- ② 報告事項 報告 1. 2020年度事業計画
報告 2. 2020年度収支予算

公益法人日本気象学会の主たる事務所を東京都千代田区から東京都港区に移転したことに伴い、定款の一部改正に向け、臨時総会を3月29日に日本気象学会事務室で開催した。

臨時総会は定期総会と同様に、新型コロナウイルス感染症の状況に鑑み、臨時総会会場に集まらないこと、書面あるいは電磁的方法による参加票（議決権の行使と議決権の代理行使）の提出により各議案を議決することとして、以下の議案を審議し、臨時総会参加票による総社員の議決権の3分の2以上の賛成で承認した。

- ① 審議事項 議案 公益社団法人日本気象学会定款の一部改正について

(2) 理事会

理事会は原則として2か月に1回開催し、必要に応じみなし決議（定款第36条に基づき、全理事の書面又は電磁的方法による同意が得られた場合）による理事会を開催した。理事20名、監事2名によって理事会を構成しているが、理事長は必要に応じて支部長等の出席を求めて開催することが出来る。2020年度の理事会議題（協議事項）は以下の表のとおりである（定常的な報告事項は省略）。

開催年月日	協議事項	協議の結果
第40期第16回理事会 (2020年4月16日)	1. 第40期第15回理事会議事録の確認	みなし決議で承認
	2. 2019年度事業報告・2019年度決算報告・2019年度監査報告について	〃
	3. 2019年度総会資料及び参加票について	〃
第41期第1回理事会 (2020年5月21日)	1. 理事長の選任(佐藤 薫)	無記名投票で決定
	2. 副理事長の選任(橋田俊彦)	全会一致で承認
	3. 業務執行理事の選任(橋田俊彦、池上雅明、齋藤篤思)	〃
	4. 委員長の選任	〃
	5. 米国気象学会(AMS)とMOUにかかる覚書きについて	〃
	6. 220年度秋季大会の開催方法について	〃
第41期第2回理事会 (2020年6月22日)	1. 2020年度総会議事録の確認	みなし決議で承認
	2. 第41期第1回理事会議事録の確認	〃
第41期第3回理事会 (2020年7月27日)	1. 会員の新規加入等について	全会一致で承認
	2. ウィズ/ポスト・コロナ時代の大会のあり方検討WG及び財政改善検討WGの設置について	〃
	3. 松野賞受賞者選考規程の改正について	〃
第41期第4回理事会 (2020年10月5日)	1. 会員の新規加入等について	全会一致で承認
	2. 第41期第3回理事会議事録の確認	〃
第41期第5回理事会 (2020年11月10日)	1. 会員の新規加入等について	全会一致で承認
	2. 第41期第4回理事会議事録の確認	〃
	3. 2021年度春季大会に開催に関する提言	〃
	4. 基本財産(一部)の運用満期に伴う今後の対応について	〃
	5. 声明等の取り扱いの一部改正について	継続審議とした
第41期第6回理事会 (2020年11月27日)	1. 2020年度臨時総会について	みなし決議で承認
	2. 第41期第5回理事会議事録の確認	〃
第41期第7回理事会 (2021年2月5日)	1. 会員の新規加入等について	全会一致で承認
	2. 2021年度事業計画書・収支予算書・資金調達及び設備投資の見込みについて	〃
	3. 旅費支給内規の一部改正	〃
	4. 松野賞受賞者選定規程及び掲載料免除規定の一部改正について	〃
	5. 声明等の取り扱いの一部改正について	〃
	6. 共同利用・共同研究拠点に係る要請書等について	〃
第41期第8回理事会 (2021年3月26日)	1. 会員の新規加入等について	全会一致で承認
	2. 第41期第7回理事会議事録の確認	〃

(3) 支部長会議

公益社団法人移行に伴い、支部からの理事の選任が廃止されたことから、各支部との連携強化を図るため新たに支部長会議を設置した。新たに設置した支部長会議は、理事長・理事・監事・支部長により構成され、原則として年1回、理事長が招集して開催することとしている。

第41期第1回支部長会議

日付：2021年2月5日

議題：2020年度支部活動報告

2021年度支部活動計画

秋季大会の取り組み状況

ウィズ/ポスト・コロナ時代の大会のあり方について

(4) 有識者会議

有識者会議は、有識者・理事長・理事・監事によって構成し、理事会の諮問事項を審議する。有識者は諮問事項に適任な方に理事長が委嘱する。2020年度は開催していない。

(5) 各種委員会

日本気象学会では23の委員会を設置して、公益目的事業1～3を分担して実施している。なお、上述した3つの事業報告の中で言及しなかった事業については、設置している各委員会活動の一環として実施している。

以下に2020年度に、各委員会で実施した事業についてその概要を記載する。

・ 気象災害委員会

気象学会HPに、気象災害特設ページと題して、災害をもたらした気象現象に関する会員による分析・解析、関係学会や関係機関における調査・解析や災害調査の結果を、災害直後からポータルとして一覧できるサイトの運用を開始した。また、防災学術連携体におけるシンポジウムでの講演、WEB研究会での発表などの活動に参画している。

・ 電子情報委員会

学会サーバやメーリングリストの管理及びウェブサイト掲載情報の更新・機能充実、障害対応に加えて、オンライン秋季大会を支援し、クラウドアカウントの発行やメーリングリスト作成等会員に対するサービスを充実させた。

以上